

# 東京バッハ合唱団 月報

[第 618 号] 2013 年 12 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: [office@bachchor-tokyo.jp](mailto:office@bachchor-tokyo.jp) <http://bachchor-tokyo.jp/>

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 618

December 2013

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 年末・年始にあたって — “さあ クリスマスを始めよう” — ?!

大村 恵美子 (東京バッハ合唱団 主宰者)

クリスマスはたのしい！ Xマスは明かるい！ Xマスは輝いてきれい！ Xマスは好きな人とすごせる！ Xマスは欲しいものが降ってくる！

一もう私の生まれる前から、こんなウキウキした気持ちで、日本人も、この季節を待ちかまえるようになっていたようです。東京では、ちょうど強い北風が吹きはじめ、雪がちらほらするのも、このあたりが多く、厳冬に入ることが実感されてきます。

でも、なんと、テレビ・コマーシャルで“クリスマスを始めよう”というせりふに接したのは、今年が初めてで、驚きました。商業主義も、ついにここまで極まれりか、という思いです。キリスト教会でも、クリスマス始める、とは云いません。コマーシャルの意味は、そろそろツリーや電飾を出して飾れとか、ごちそう・お菓子をつくり、贈り物をたくさん買いそろえろ、とかをさすらしいのですが。

キリスト教国のある地域 (ライブツィヒの友人宅) などでは、早くから用意をしたプレゼントも隠しておいて、12月24日になってやっと飾りは始めるクリスマス・ツリーの土台のまわりに、25日早朝、まだ子どもたちの眠っているうちに並べるくらいで、日持ちのするクッキーなどを焼くとしても、やたらとそばから頬張ったりしません。そういう堅苦しい制限を自らに課しているのですが、そんな風習の伝わっていない東京では、出回りだしているアドヴェント・カレンダー (12月1日から24日の期間、日付けのついた小さな窓を1日ずつ開けて、待降の時季を過ごすカレンダー) を子どもたちにあげると、説明するよりも早く、その場で全部の窓をこじ開けて、中のチョコレートを食べてしまう、という例が何回もありました。

コマーシャルイズム、つまり人間の欲望をかきたてる力がクリスマス・ジャックしているのです。忍耐と待望の精神を植えつける期間なんかすっ飛ばし、何を待つのかも知らずじまい。自分たちが欲望を満たすシーズンを、自分たちの意志で「始めましょう」というわけです。

教会やミッションスクールでも、子ども会、青年会、何種類のおとなの会、それぞれ別の主催で、「今年はこれで5回目よ、あと…回」などと、なかば呆れ、なかば得意そうに言う人もいます。ほんとうは、プレクリスマスではなく、欧米では12月25日から1月の始めまでの後祝いになるのですが、31日は大晦日 (みそか)、1日は元旦の初詣 (もうで)、神社でも寺でもよし、が控えているので、ツリーもすぐに松飾にすげかえなくては、と、八百万の神のましますわが国では、転換に大忙しなのです。

× × ×

そういう私たちの合唱団でも、本来ならば1月1日 (命名の記念日) から6日 (顕現祭) 用に作曲された

### 創立 50 周年の《クリスマス・オラトリオ》、ブラボー！

第 109 回定期演奏会—4 大合唱作品連続演奏 [4]、おかげさまで成功裏に終了しました。ご来場のみなさま、サポートのみなさま、こころより御礼申し上げます。



●写真撮影：床田真理さん (2013年12月7日、杉並公会堂)

《クリスマス・オラトリオ》後半を、早々と 12 月 7 日の、やっと抽選に当たったホールで上演することができ、夏の残暑がほんの 2,3 カ月前まで居すわった今年、チケット売りに苦労しました。

ここまでは、愚痴っぽくなりましたが、ひるがえって、冒頭にあげたいいくつかのクリスマス観は、考えれば、それほど見当ちがいでもなく、イエスの生誕祝いとかけ離れたものではないのです。一寸先は闇、という人生の孤独につつまれて、何かにすがりたいと思う私たちの懐中を、“愛が欲しい、愛を何かと分かちたい”という衝動の発露として、いろいろ現実的な“クリスマス”現象が吹きだしてくるのでしょうか。気のゆるせる誰とも会えない、誰とも物をやりとりしない、こういう孤立した自分を、何かで紛らわす……。“あなたといつも一緒にいますよ”という名前 [=インマヌエル、イザヤ書 7:14] の神になじまない単独者は、“ひとなみ”の温かい環境をコマーシャルによって求める。

しかし、12 月 7 日の私たちの定期演奏会は、例年になく緊迫した社会情勢の中でおこなわれました。前日に、テロとデモの区別もつかない無知な政権に抗議する間もあらず、強引な全速力で、類いまれな悪法は成立し、その一方、二日前の 12 月 5 日には、虐げられてつづけてきた黒人が、南アフリカで寛容の指導者となって「虹の国」を世界にかかげ、95 歳の長寿を全うして天に上げられました。代々の大統領暗殺に血塗られたアメリカの歴史と、何という対照でしょう。

日本は、その、銃社会をやめられず、宣戦布告もなしに他国にのりこんでいて、一国の元首をすらひっ捕らえたり空爆したりするような、人命より金儲けが優先する国の言うなりに、先ずは今回の情報統制・言論封殺の悪法を皮切りに、“ナチの手口”で徐々に外堀をうめて、平和憲法を無力化しつつ、日米運命共同体

への道を突き進んでいます。

そのアメリカの番犬であることを、ここできっぱりと改めて、万物の殺し・壊しに対する、留め男、留め女となるため、勇気を奮い起こすのは、今でしょ!!

私たちの《クリスマス・オラトリオ》は、次のように歌いました。

ああ いつ来たらん 慰めは

主は いまげに ここにいます

(第 51 曲、SAT 三重唱)

主よ 驕れる敵(あだ)に

雄々しく 向かわしめよ み力に頼りて

主にのみ 抛りたのめば

鋭き あだの爪より 逃るるを得ん

(第 54 曲、合唱)

その勇気を、よくぞ思い起こさせてくれました、というコンサートの感想が、現在もとどきつづけています。2014 年新年の、私たちの進路は、くっきりと立ち上がっています。おとなしく“お・も・て・な・し”の善人ぶりを振りまくことから抜け出して、奥深い日本の“底力”に徹する、重い機会に突入してゆきましょう。

(2013. 12. 10)

## 第 109 回定期演奏会 会場アンケートより

### ■演奏全般について

・ブラボー! すばらしい!!! 創立 50 周年おめでとうございます。

・ソロも合唱もオケも、全体的にすばらしい。よくここまでまとめてこられたと感動します。どうぞ、末永く、活動をお続けください。

・小編成のオーケストラで、充分な、すばらしい音色でした。とくに Tr、Ob がすばらしかった。

・悪法が通った日の翌日で、どこか歌う方も聴く方も元気がなかったが、だんだんと力がでてきたようだ。

・とてもクオリティの高い演奏に感心しました。

・素晴らしかった。演奏者の信仰が感じられた。古楽器の響きが聴けてよかった。

・合唱もオーケストラも美しく満足でした。特にトランペット、コンマス、オルガン、オーボエなど、各パートのトップがすばらしかったです。指揮もわかりやすく、エネルギーに感動しました。

・Sehr gut.

・演奏も歌も素敵でした。

・心のこもったクリスマス・オラトリオをどうもありがとうございました。主の恵みに感謝します。ご一緒に歌うことができ、うれしかったです。

・よかったです。響きもすばらしい。

・昨年より実力がぐっと上がっていました。

・とても心地よくききました。

### <終了報告>

#### 第 109 回定期演奏会

— 創立 50 周年記念「バッハ 4 大合唱作品 [日本語] 連続演奏」[4] —

日時：2013 年 12 月 7 日 (土)、13:30 開演

会場：杉並公会堂大ホール

曲目：教会カンタータ第 76 番《主の栄光を 天は語り》  
《クリスマス・オラトリオ》IV・V・VI 部

演奏：光野孝子 (S)、斎藤水樹子 (S エコー)

佐々木まり子 (A)、鳥海 寮 (T)

藪西正道 (B)、東京カンタータ室内管弦楽団

草間美也子 (Org)、東京バッハ合唱団

大村恵美子 (指揮)

入場料：(全席自由席) 前売り 3500 円、当日 4000 円

来場者数：504 名 (有料 417 名、招待 87 名\*)

(\* 招待内訳：団友 12 名、後援会員 44 名、他 31 名\*\*)

(\*\* 他の内訳：日本シンガポール協会 5 名、日本香港協会 14 名、日独協会 6 名。東京英語いのちの電話オーケション 6 名)

## ■とくに、日本語演奏について

・われわれ聴く者にとっては、分かり易くありがたいです。長年訳を入れ、歌い、普及されてきたことを尊敬いたします。

・日本語も、わかるところは良いのですが、わからないところが多い。また平坦に聞こえて仕方ありません。でも日本語で歌う価値はあると思います。その努力に敬意を表したいと思います。

・あまり気にならなくなったが、パンフを見ないと歌詞が聞きとれない箇所が多い。

・ソリストの発音は、せつかくの日本語が聞き取りにくい。アルトが一番聞き取りやすかった。53、59 コラールに感動。とくに 64 のコラールにバッハの信仰と神学を感じ、感激!!

・大変よい。絶賛したい。

・日本語なので、分かりやすくていいですね。

・歌詞カードを見なくてよいので、曲をしっかりと聴くことができました。訳詞が旋律の流れを壊すことなく、バッハの意思を伝えていて感じます。

・初心者にはわかりやすくて良かった。

・意味が分かってよかった。

・今回は、日本語がしっかり聞きとれました。日本語演奏の意義が理解できました。

・全てを聞き取れたわけじゃないけれど、ときどき分かる日本語に安心するところがありました。でも原語の響きのほうが本物なんじゃないかと思うところもありました。

・日本語の歌詞がとても分かりやすく、心に染み入りました。プログラムに歌詞を載せてあったので、何度も読み返しながら、合唱に耳を傾けることができました。

・いつも思っていますが、心にしみます。

・日本語演奏大歓迎なのですが、残念なことに、アルトの方の発音しか聞き取れませんでした。

・テキストが手元にあったので、わかりやすかったです。とくにソリストのテノールとアルトの日本語で、コトバがちゃんと立っていたように思いました。意味が伝わってきたと感じられた。

## ■運営・会場、何でも

・曲の切れ目（拍手をするところ）、何かもう少しけじめがあると良いのですが。

・会場も天井が高くてすばらしいですね。

・とても響きのいいホールで、落ち着いた雰囲気なのか、ゆったりと音楽が愉しめました。運営について気になったことはありません。

・会場、演奏中にかかわらず、おしゃべり、携帯音が迷惑でした。

・会場は来やすくて良かったです。音響もよかったですと思います。

・きれいで、いいホールだと思います。

・これからも、頑張ってください。God bless you a lot  
…☆

・トイレが最上階にもあることを、休憩時間に知らせてください。

・お天気は好し、会場は良し、理解ある客ばかりで良し、ととてもよかったです。

## <メッセージ>

・大村恵美子先生、バッハ4大合唱作品の連続演奏、成功裏にすすんでおられることを心よりお祝い申し上げます。東京バッハ合唱団の益々のご発展をお祈り申し上げます。（神田明様、団友・春秋社会長）

・第109回定期演奏会のご成功をお祈りいたします。みなさん頑張ってください。陰ながら応援しております。（大切幸一様、後援会員・元団員）

・大村先生へ、木が40cmぐらいに育っています。[前回の「マタイ受難曲」出演記念に苗をお分けしたゲーテ草のこと]（瀬戸口芽生ちゃん・文音ちゃん、マタイ児童合唱団員）

・今日は亡き母の代わりにご招待くださってありがとうございました。大村先生のご活動はユニークで興味深いです。今日も楽しみです。（清水章子様）

・昨日、杉並公会堂での2013クリスマス・オラトリオを家内共々楽しませていただきました。日本語のバッハに昨年に引き続き惹かれて聴かせていただきました。大曲でしたね。素晴らしいハーモニーでした。さぞ、練習は大変だったことでしょう。皆様のご精進ぶりが目に浮かぶ思いです。これからもバッハの名曲の数々を日本語で聴かせてください。お招きまことにありがとうございました。お礼を申し上げます。（鈴木貞男様、日本シンガポール協会会長・元東京海上シンガポール社長）

・心洗われる Bach のひとときをいただきました。ひきしまった音、でも明るく希望に満ちた音色に浸ることができました。マタイのあの大曲演奏に比しても、大変お元気な指揮のお姿に、感銘した次第です。3、聞け民よ：ソプラノ、ヴァイオリン、チェロのかけあいは、可憐で美しく、楽しませていただきました。39、エコー・ソプラノはまるで天空から応えるような神秘的な音でした。51、三重唱：ソプラノ、アルト、テノール、そしてヴァイオリン……、希望の音が鳴り響いたように思います。54、おごれる敵に、雄々しく向かわしめよ：最も感銘を受けました。大きな人間の営みを感じさせます。歴史の逆回しが始まったこの時代に、前に向かって、より強く生きていきたいと、改めて感じました。素晴らしい Bach の体験をありがとうございました。（三谷啓文様、「戦争に反対する市民の会」スタッフ。終演後、日比谷の特定秘密保護法抗議集会に駆けつけられました）

## 年末年始と来年の活動予定

### ●荻窪教会クリスマス演奏会

日時：12月23日（月/祝日）、13:30 開演  
会場：日本キリスト教団 荻窪教会  
入場無料

曲目：《クリスマス・オラトリオ》IV・V・VI 抜粋  
演奏：金澤亜希子 [オルガン]、大村恵美子 [指揮]  
⇒詳細、チラシ参照（ご請求ください）

<年内練習、終了>

2014年.....

<年始練習、開始>

1月6日（月）～、目白聖公会、18:30 - 20:30

1月11日（土）～、荻窪教会、15:30 - 17:30

### ●第110回定期演奏会《ヨハネ受難曲》

— 4大合唱作品連続演奏 [5]（最終回）—

日時：3月15日（土）、13:30 開演

会場：杉並公会堂

演奏：

鏡 貴之 [エヴァンゲリスト/テノール]  
渡邊 明 [イエス/バス]、光野孝子 [ソプラノ]  
佐々木まり子 [アルト]、鳥海 寮 [テノール]  
藪西正道 [バス]、草間美也子 [オルガン]  
東京カンタータ室内管弦楽団 [管弦楽]  
東京バッハ合唱団 [合唱]  
大村恵美子 [指揮/訳詞]

入場券発売中：前売り 3500円（全席自由席）

⇒詳細、チラシ参照（ご請求ください）

### ●三崎町教会 特別演奏会

「合唱と聖書朗読による《ヨハネ受難曲》」

日時：3月29日（土、四旬節第3週）

会場：日本キリスト教団 三崎町教会

入場無料（整理券発行の予定）

演奏：金澤亜希子 [オルガン]、東京バッハ合唱団  
（詳細は、続報をお待ちください）

### ●荻窪教会 特別演奏会

「合唱と聖書朗読による《ヨハネ受難曲》」

日時：4月13日（日、棕櫚の主日）

会場：日本キリスト教団 荻窪教会

入場無料

演奏：金澤亜希子 [オルガン]、東京バッハ合唱団  
（詳細は、続報をお待ちください）

### ●第111回定期演奏会（12月頃、日時会場選定中。曲

目候補：教会カンタータ BWV36、62、97、マフィカ挿入曲などクリスマス用プログラムを企画中）

### ●第112回定期演奏会（2015年8月頃、東北3.11被災地巡演プログラム。曲目 BWV14、81、92、227 モテットⅢ。月報610号に素案。現地と詳細を折衝中）

## バッハ・カンタータと教会暦の聖句一覧 ⑨

BWV 84 《われ足れり わが幸に》(初演 1727)

Ich bin vergnügt mit meinem Glücke

【教会暦】復活節前第9日曜日(他に=BWV 92, 144)

[書簡]第1コリント 9:24-10:5。朽ちない冠りを得るために節制する。[福音書]マタイ 20:1-16。ぶどう園の労働者、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。

BWV 85 《われは 善き牧人》(1725)

Ich bin ein guter Hirt

【教会暦】復活節後第2日曜日(=BWV 104, 112)

[書簡]第1ペテロ 2:21-25。罪に対して死んで、義によって生きるようになるために、自らその身に私たちの罪を担ってくださった。[福音書]ヨハネ 10:12-16。わたしは良い羊飼いである。わたしは羊のために命を捨てる。

BWV 86 《げに なれらに告げん》(1724)

Wahrlich, wahrlich, ich sage euch

【教会暦】復活節後第5日曜日(=BWV 87)

[書簡]ヤコブ 1:22-27。御言葉を行う人になりなさい。[福音書]ヨハネ 16:23-30。あなた方がわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。

BWV 87 《今までは なれら求めざりき》(1725)

Bisher habt ihr nichts gebeten in meinem Namen

【教会暦】復活節後第5日曜日(上に同じ)(=BWV 86)

[書簡]ヤコブ 1:22-27。BWV 86に同じ。

[福音書]ヨハネ 16:23-30。(同上)

BWV 88 《見よ われ多くの漁師を遣わし》(1726)

Siehe, ich will viel Fischer aussenden

【教会暦】三位一体節後第5日曜日(=BWV 93)

[書簡]第1ペテロ 3:8-15。悪から遠ざかり、善を行い、平和を願って、これを追い求めよ。

[福音書]ルカ 5:1-11。イエス、漁師たちを弟子にする。

BWV 89 《われなれを いかになさん エフライム》(1723)

Was soll ich aus dir machen, Ephraim?

【教会暦】三位一体節後第22日曜日(=BWV 55, 115)

[書簡]ピリピ 1:3-11。BWV 55に同じ。

[福音書]マタイ 18:23-35。(同上)

BWV 90 《恐ろしき終り なれら襲う》(1723)

Es reißet euch ein schrecklich Ende

【教会暦】三位一体節後第25日曜日(=BWV 116)

[書簡]第1テサロニケ 4:13-18。イエスを信じて眠りについた人たちも、イエスと一緒に導き出してください。[福音書]マタイ 24:15-28。大きな苦難が来ても、惑わす者を信じてはならない。

BWV 91 《頌め歌わん 主イエス》(1724)

Gelobet seist du, Jesu Christ

【教会暦】降誕節第1祝日(12/25 固定)(=BWV 63, 110, 191)

[書簡]イザヤ 9:2-7。BWV 63に同じ。[福音書]ルカ 2:1-14。(同)

BWV 92 《わが心 思い 神にゆだねたり》(1725)

Ich hab in Gottes Herz und Sinn

【教会暦】復活節前第9日曜日(=BWV 84, 144)

[書簡]第1コリント 9:24-10:5。BWV 84に同じ(上掲)。

[福音書]マタイ 20:1-16。(同上)

BWV 93 《ただ 主に 依り頼み》(1724)

Wer nur den lieben Gott läßt walten

【教会暦】三位一体節後第5日曜日(=BWV 88)

[書簡]第1ペテロ 3:8-15。BWV 88に同じ(上掲)。

[福音書]ルカ 5:1-11。(同上)

BWV 94 《いかで 世を問わん》(1724)

Was frag ich nach der Welt

【教会暦】三位一体節後第5日曜日(=BWV 105, 168)

[書簡]第1コリント 10:6-13。神はあなた方を、耐えられないような試練に遭わせず、逃れる道をも備えたもう。

[福音書]ルカ 16:1-9。不正にまみれた富で友達を作りなさい。金が無くなったとき、あなた方は永遠の住まいに迎え入れてもらえる。

BWV 95 《キリスト わがいのち》(1723)

Christus, der ist mein Leben

【教会暦】三位一体節後第18日曜日(=BWV 8, 27, 161)

[書簡]エフェソ 3:13-21。BWV 8に同じ。

[福音書]ルカ 7:11-17。(同上)